

三浦一馬とTGSのために書いた作品

「Capricho Japonés 日本奇想曲」

がこの度初演されることをとても嬉しく思います。曲を書くにあたり、私から見た「日本らしさ」と、日本での様々な思い出をこの曲に盛り込みました。基盤には日本古来の音階があり、それを用いて作ったタンゴのリズムは非常に新しい響になったと思います。中盤の抒情的な部分は、1973年に初めて来日した時にそこかしこで聴こえて来た「瀬戸の花嫁」のメロディが忘れられず、新たな響きを加えて取り入れました。曲のフィナーレは91年に来日した際初演した自作曲「Moda Tango」のフレーズで締めくくられます。皆さんに気に入ってもらえたら嬉しいです。

Néstor Marconi